ESDの未来探る

100年シンポ第1弾 神戸にユヌス氏招く

「賀川豊彦献身100年記念事業」神戸プロジェクト実行委員会は3月7日から3日間の日程で、神戸市内で「ESDシンポジウム インKOBE『持続可能な社会づくりとソーシャルワーク』」を開催する。神戸大との共催で、同実行委員会が計画する100年間シンポジウムを続ける「100年シンポジウム事業」の第1弾。

ESDは「持続可能な開発のための教育」の意味の略語。地球環境やエネルギー問題など地球規模での社会的な課題を解決し世界中の人々が安心して暮らせる社会を実現するために、人々が必要な力や考え方を学ぶことを言う。

国連は05年から14年までを「ESDの10年」と定め、国連教育科学文化機関（ユネスコ）などが取り組んでいるが、ESDの内容や手法はまだ明確になっていないという。

このシンポジウムでは、ノーベル平和賞を受賞したバングラデシュの「グラミン銀行」総裁で、経済学者のムハマド・ユヌス氏を招き、貧困・福祉・平和の観点に立ったソーシャルワークの重要性に着目、貧困層に無担保融資を続けてきた「グラミン銀行」の活動や、救貧活動から生協運動に発展した賀川豊彦の実践に学び、ESDの方向性を探る。

メーンセッションの3月8日には、ユヌス氏が「持続可能な社会づくりとソーシャルビジネス」と題して基調講演を行う。また、同記念事業東京プロジェクト実行委員会委員長の阿部志郎・神奈川県立保健福祉大名誉学長が「ESD実践の草分けとしての賀川豊彦」の講演を行い、その後両氏による対談を企画。翌9日にはユヌス氏と神戸大の学生とのトークセッションも予定されている。

西義人・同記念事業神戸プロジェクト実行委員会事務局顧問は「ESDというと難しいが、ユヌス氏のバングラデシュでの実践は、100年前に賀川が考えたことに通じている。貧しい人々が自立して生きる仕組みをつくろうという点で共通性があり、分かりやすいと思う」と話す。

× × ×

シンポジウムの詳細は次の通り。

▽3月7日（プレセッション） 神戸市の神戸大六甲ホール（百年記念館）で、午後1時から。大学院生・学生らによる「ESD」「ユヌス氏」「賀川豊彦」などをテーマにした研究発表やワークショップなど。

▽同8日（メーンセッション） 神戸市の神戸国際会議場メーンホールで、午後12時半から。ユヌス氏と阿部名誉教授の対談の司会は上野谷加代子・同志社大教授。

▽同9日（トークセッション） 神戸市の神戸大六甲ホール（百年記念館）で、午前9時15分から。ユヌス氏と神戸大の学生との「ユヌス氏を囲んで本音でトーク」のほか、ユヌス氏への神戸大名誉博士号授与式も行われる。

参加は無料。いずれの日もインターネットか、ファクス、郵送による申し込み制で先着順。定員になり次第締め切り。詳細、申し込みのホームページはhttp://www.h.kobe-u.ac.jp/esd

問い合わせは、神戸大大学院人間発達環境学研究科ヒューマン・コミュニティ創成研究センター内「ESDシンポジウム インKOBE」事務局、電話078（803）7970（平日午前10時～午後4時対応）。